

# お客様本位の業務運営に関する主要な取組結果

ブラックロック・ジャパン株式会社

## 【方針2 お客様の最善の利益の追求に関する取組結果】

### ▶ 多様な投資手段の提供

- **ETFの商品ラインナップを拡充**：ブラックロックは、お客様が少ないコストで世界に分散投資しやすくなるよう、米国債や米国株、インド株、日本国債、ゴールドなど幅広い資産に投資できる商品をそろえております。当社は、2025年7月から2026年3月末にかけて合計7本の東証上場ETFを上場し\*、商品ラインナップを拡充しました。

\*392A - iシェアーズ NASDAQ トップ 30 ETF、408A - iシェアーズ AI グローバル・イノベーション アクティブ ETF、452A - iシェアーズ S&P 500 プレミアムインカム ETF、453A - iシェアーズ 米国債20年超 プレミアムインカム ETF、488A - iシェアーズ 円高フォーカス ETF、491A - iシェアーズ S&P 500 除く金融ETF（為替ヘッジあり）、515A - iシェアーズ 高格付け日本円社債 ETF

### ▶ エンゲージメントを通じた投資先企業の長期的な成長の促進

当社ではスチュワードシップ活動の一環として、投資先企業の価値向上や持続的成長への貢献を目指して2025年において約480回のエンゲージメントを実施しました。よりお客様の運用戦略に沿ったスチュワードシップ活動を行えるよう、インベストメント・スチュワードシップチームと、アクティブ・インベストメント・スチュワードシップチームの2つの独立したチーム体制での活動を開始しました。

### ▶ サステナブル及びトランジション投資の取り組み

- ▶ ブラックロックでは、2025年もお客様への受託者責任に基づき、お客様の投資目的やニーズに応じたサステナブル投資及びトランジション投資の提供に取り組んでおります。ブラックロックで開発したブラックロック・インベストメント・インスティテュート・トランジション・シナリオ（BIITS）の見直しを実施し、最新の環境政策、技術進歩やマクロ経済を反映したシナリオに更新して予測精度を高めております。ブラックロックでは、プライベート市場におけるエネルギー・トランジション関連の投資や、気候適応やレジリエンスといった分野における投資アクセスの拡大にも注力しております。

- **リサーチ**：ブラックロックでは、トランジションをAIの台頭、地政学的分断、人口動態の変化などと並ぶメガフォースの一つに位置付けており、長期的に資産のリスク・リターンに影響を及ぼす重要な要因であると考えています。一方で、トランジションの展開は、政策動向やテクノロジーの進展により左右され、地域ごとにそのスピードや経路が異なるなど、複雑かつ不確実性の高い道りとなることを予測しています。こうした認識の下、2025年にはトランジションがどのような経路を辿るかを見通すためのブラックロック独自のシナリオであるブラックロック・インベストメント・インスティテュート・トランジション・シナリオ（BIITS）の見直しを実施し、最新の政策環境、技術進展、およびマクロ経済要因を反映した分析内容へと更新しました。

- **運用力の強化**：足元では地政学リスクの高まりを背景に、エネルギー・安全保障の重要性が一段と増えています。かつてないほど複雑化しつつあるエネルギー・システムが経済全体に変化をもたらす中、パブリック市場およびプライベート市場の双方においてアクティブ運用の重要性が一層高まっていると考えています。こうした認識の下、当社はプライベート市場における投資機会の発掘に注力し、エネルギー・トランジション関連の投資を着実に実行しました。

- **投資の選択肢およびソリューションの拡充**：多くの機関投資家が運用ポートフォリオにおいてネットゼロ目標を掲げる中、当社はお客様が脱炭素目標とパフォーマンス目標の双方を達成できるよう、アセットクラス横断的、かつビジネスサイクル全般を見据えた投資戦略の拡充を進めてきました。加えて、ポートフォリオ全体を俯瞰した包括的なソリューションの提供にも努めました。さらに、外部パートナーとの連携を通じた投資機会の創出にも積極的に取り組んでおり、気候適応やレジリエンスといった分野における投資アクセスの拡大にも注力しました。

### 【方針3 お客様との利益相反の可能性を把握し、その可能性がある場合は適切に管理に関する取組結果】

#### ▶ 自己勘定取引の禁止

不適切な自己勘定とファンド及び顧客資産との取引は認められませんでした。

#### ▶ 利益相反管理方針の策定・公表

利益相反の可能性のある取引は認められませんでした

### 【方針5 重要な情報をわかりやすく提供することに関する取組結果】

#### ▶ お客様の金融知識の高度化支援

不安定なマクロ市場環境が続く中で、お客様のよりよい投資判断に資するべく、当社はウェブサイトやセミナーを通じて投資家に質の高い情報を継続的かつタイムリーに発信しています。2025年6月から2026年5月にかけては、投資環境について、グローバルの知見を提供するウェビナーを月次で、市場の急変時には緊急ウェビナーを提供しております。

また、ウェブサイトでは、2022年5月に機関投資家のお客様向けのサイトを立ち上げて以来、投資家の注目が高まりつつあるプライベート市場やトランジションなど、より幅広いテーマや資産クラスについての情報を拡充しています。個人投資家向けには、iシェアーズETF（上場投資信託）やブラックロックの投資信託が提供する様々な投資の選択肢を当社ウェブサイトや広告等でご紹介し、投資普及活動を図っています。加えて、オンラインや実店舗型の証券会社と協業し、イベントや特設サイトを通じて、ETFの基本的な商品性からコスト、個人にあった取引スタイルまで理解につながる幅広いコンテンツを提供しました。

- ▶ なお、当社は投資運用業を行っていることから、金融庁原則5の注のうち、注1及び、注3から注5について該当し、注2については該当ありません。

### 【方針6 お客様のニーズに即した商品・サービスの提供に努めることに関する取組結果】

#### ▶ 商品開発方針の策定・導入後の対応

当社は、お客様の利益に適う商品の開発及び提供に資するべく、「商品開発及び商品導入後の対応に関する方針」を策定し、商品導入後に、各商品が所期の目的を実現しているかを定期的にモニタリングしています。2025年7月以降、必ずしも中長期的なお客様の利益に適うとは期待できないと判断した4つの公募商品について繰上げ償還を行いました。

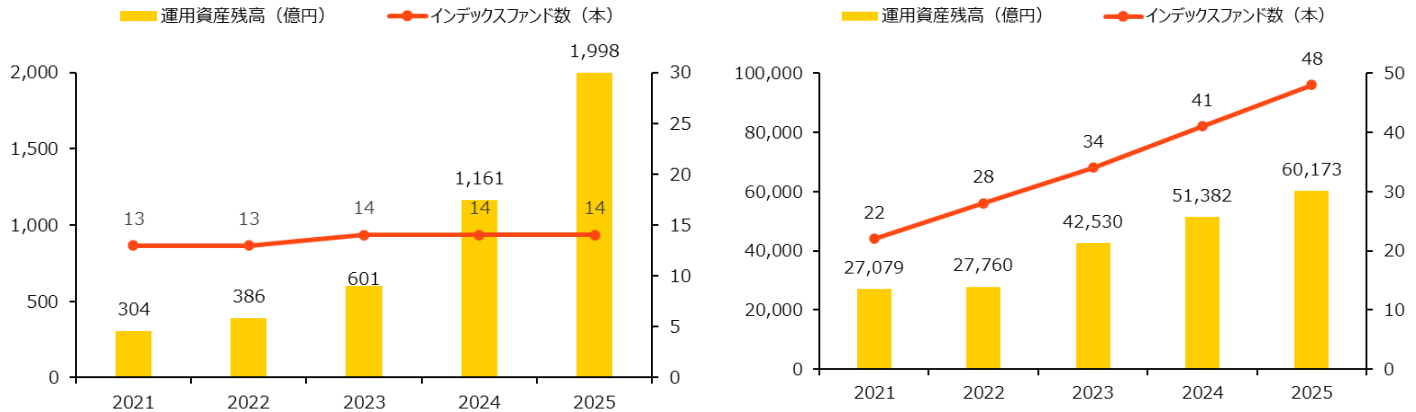
- ▶ なお、当社は投資運用業を行っていることから、金融庁原則6の注のうち、注3及び注5のみ該当し、注1、注2及び注4については該当ありません。

【お客様本位の業務運営/K P I の進捗状況について】

▶ インデックス・ファンド、上場投資信託の本数と運用資産残高(2020年 - 2025年)

当社はお客さまの長期的資産形成に向けて、インデックスファンド、上場投資信託に注力しています。

2025年末時点のインデックス・ファンド本数は14本、上場投資信託本数は48本となります。



注: DC専用ファンドは含みません

(出所) (株)野村総合研究所「Fundmark」をもとに当社が作成

▶ 2025年の年間純資金流入上位5インデックス・ファンドの純資産流入額、純資産残高、設定時期

#	ファンド名	年間純資金流入額 (2025年、百万円)	純資産残高 (2025年末日時点、百万円)	設定時期 (年/月)
1	iシェアーズゴールドインデックス・ファンド (為替ヘッジなし)	26,859	81,991	2013/09
2	iシェアーズ米国株式 (S & P 500) インデックス・ファンド	11,912	83,224	2013/09
3	つみたて iシェアーズ米国株式 (S & P 500) インデックス・ファンド	2,406	9,217	2023/11
4	iシェアーズゴールドインデックス・ファンド (為替ヘッジあり)	189	1,411	2018/04
5	iシェアーズ新興国株式インデックス・ファンド	103	2,104	2013/09

注: DC専用ファンドは含みません

(出所) (株)野村総合研究所「Fundmark」をもとに当社が作成

▶ リターン上位の5アクティブファンドのリターン、基準価額騰落率、純資産残高、設定時期(2025年12月末時点)

#	ファンド名	累積リターン (%)		純資産残高 (百万円)	設定時期 (年/月)
		直近5年間	直近1年間		
1	ブラックロック・ゴールド・メタル・オープン Bコース (為替ヘッジなし)	247.7	147.3	59,825	1995/02
2	ブラックロック・ゴールド・ファンド	246.2	147.7	60,044	2003/02
3	ブラックロック天然資源株ファンド	227.9	52.6	9,446	2007/12
4	ブラックロック E S G 世界株式ファンド (為替ヘッジなし) ブ	166.4	18.4	27,565	2015/09
5	ブラックロック U S ベーシック・バリュー・ オープン	165.5	19.9	27,618	1998/07

注: DC専用ファンドは含みません

(出所) (株) 野村総合研究所「Fundmark」をもとに当社が作成

▶ 資産形成に資する投資信託 (つみたて NISA 採用) の残高(2025年12月末)

ファンド名	純資産総額 (百万円)	設定年月	提供形態
ブラックロック・つみたて・グロー バルバランスファンド	53,172	2018/01	当社設定国内籍投信
iシェアーズ 米国株式 (S & P 500) インデッ クス・ファンド	83,224	2013/9	当社設定国内籍投信
つみたてiシェアーズ米国株 式 (S&P500) インデッ クス・ファンド	9,217	2023/11	当社設定国内籍投信
ブラックロック E S G 世界 株式ファンド (為替ヘッジ なし)	27,565	2015/09	当社設定国内籍投信
ブラックロック世界分散投 資ファンド	13,828	2014/05	当社設定国内籍投信
iシェアーズ・コア S&P 500 ETF(*)	119,197,391 (**)	2000/05	当社グループ設定外国籍上場株式投 資信託
iシェアーズ・コア MSCI先 進国 (除く米国) ETF(*)	3,790,962	2017/03	当社グループ設定外国籍上場株式投 資信託

注(\*) iシェアーズ・コア S&P 500 ETFの純資産総額は日本以外の諸外国を含む。

(\*\*)為替レートは、1米ドル=157.20円 (2025年12月末)を用いて円換算

(出所) (株) 野村総合研究所「Fundmark」をもとに当社が作成

- ▶ **ブラックロックがグローバルに運用するアクティブ運用商品のうち、業界における中央値またはベンチマークを上回っている運用資産の割合 (2025 年実績)**

商品カテゴリー	1 年(%)	3 年(%)	5 年(%)
Fixed Income - Taxable	76	86	82
Fixed Income - Tax-exempt	46	53	62
Active Equity - Fundamental	40	71	46
Active Equity - Systematic	78	95	94

(出所) BlackRock Inc. "2024 Annual Report."

(注) 2025 年 12 月 31 日時点で入手可能なデータに基づく試算。

- ▶ **運用部門のプロフェッショナルの経験年数 (2026年3月末現在)**

- **ブラックロック・ジャパンの運用部門に所属するプロフェッショナルの平均経験年数 : 15 年**

(注) プロフェッショナルとは、ポートフォリオ・マネジャー、プロダクト・ストラテジスト、アナリスト、トレーダーを指す。現在、71名。

- **うち、運用責任者の平均経験年数 : 23 年**

(注) 運用責任者とは、実際に運用に携わる者 (ポートフォリオ・マネジャー) のうち、管理職級以上 (ディレクター以上) の者を指す。現在 19 名。

# 「プロダクトガバナンスに関する補充原則」に関する主要な取組結果

2024年9月に、金融庁は「顧客本位の業務運営に関する原則」を改訂し、「プロダクトガバナンスに関する補充原則」（以下、「補充原則」）を追加しました。これを受けて、当社はブラックロックと連携し、「プロダクトガバナンスに関する方針」に基づき、様々な取組を実施いたしました。下記に各方針に関する取組結果を紹介します。

## 【方針 3 お客様の真のニーズに応じた商品の提供と見直しに関する取組結果】

### ▶ 商品組成時の対応

グローバル株式を投資対象とする初のアクティブ ETF として、i シェアーズ AI グローバル・イノベーション アクティブ ETFを2025年9月8日に東京証券取引所に新規上場いたしました。当ファンドは、日本を含む世界中の AI 関連企業の株式を投資対象とし、急速に進化する AI 技術に対し、機動的かつダイナミックに投資判断を行う手法を通じて、幅広い投資家層に新たな投資機会を提供するアクティブ ETF としてご提供しております。

## 【方針 4 商品の継続的な検証とプロダクトガバナンスの強化に関する取組結果】

### ▶ 商品組成後の対応

当社の商品を扱う販売会社と連携し、当社の商品を購入した顧客の属性を定期的に分析するための体制を整備いたしました。2025年末現在、複雑な商品や運用・分配手法等が特殊な公募ファンドとして、コモディティー資産を組み入れている1ファンド、毎月分配型の4ファンド、絶対収益型の1ファンドの計6ファンドの顧客属性情報を分析して、販売会社に連携し意見交換を行いました。引き続き、販売会社からの情報をもとにこれらのファンドが想定する適切な顧客に購入がなされるよう分析や、販売会社との連携を続けています。

## 【方針 5 透明性の高い情報の提供に関する取組結果】

- ▶ お客様がご自身に合った金融商品を選択できるよう、運用の仕組みや考え方、運用体制、これまでの実績などを目論見書、販売用資料、マンスリーレポートで図表を用いてご説明するとともに、BINC (ブラックロック・フレキシブル・インカム・ファンド)など、一部のファンドでは動画コンテンツを弊社ホームページ上で公開し、お客様が確認しやすい媒体で、分かりやすいコンテンツの提供に取り組みました。

2026年6月30日現在

### お問い合わせ先

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 375 号

加入協会／一般社団法人 資産運用業協会、日本証券業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ホームページ <http://www.blackrock.com/jp/>

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目 8 番 3 号 丸の内トラストタワー本館